

## 埼玉版FEMAの概要

- 平時において起こり得る災害をあらかじめ想定し、その規模や種類に応じて対応する官民の組織、団体、企業などを定め、時系列的に実施すべき行動をあらかじめ取り決めておく。  
⇒危機管理の要諦は想像力と平時の「準備」にある
- この取り決めに基づき災害対応のシナリオを作成し、図上訓練を繰り返し、災害対応力を高めていく手法である。  
⇒シナリオ作成や図上訓練を通して関係機関どうしの「顔の見える関係」と「強固な連結」を推進する

### 【FEMA(米国緊急事態管理庁)】

- ・国土安全保障省(DHS)に属する米国の政府機関。緊急対応時にはFEMAに権限を一元化、実動部隊を備える。
- ・埼玉版FEMAでは、県は実動部隊を持たず専門家も限られているため、FEMAが災害に応じて様々な専門知識を有する政府機関や民間を組み合わせ、実効性ある初動体制を迅速に行えるよう調整する機能に着目した。

## 埼玉版FEMAの特徴

- 関係機関どうしの「顔の見える関係」と「強固な連結」を推進する手法である。(新組織を立ち上げるものではない)
- 図上訓練は自由に意見を交わす検討会方式で実施する。(ロールプレイング形式の図上訓練ではない)

## 埼玉版FEMAの実施手順

- ①シナリオ作成**  
具体的な被害を前提に、関係機関への確認等の上でシナリオを作成
- ②シナリオに基づく訓練**  
シナリオに基づき図上訓練を実施。  
新たな課題等を明らかにする。
- ③課題の抽出と反映**  
明らかになった課題等をシナリオに反映。  
更新したシナリオを基に更に検討を深める。



## 図上訓練の実施状況

第1回 (7月27日)	「大規模停電時の電気施設復旧」	15機関	28人参加
第2回 (8月31日)	「緊急避難場所における避難者の人命確保」	11機関	25人参加
第3回 (10月19日)	「高齢者福祉施設の浸水被害への対応」	17機関	37人参加
第4回 (12月23日)	「風水害における断水時の応急給水」	17機関	32人参加
中止 (1月15日)	「風水害における停電時の電源車・非常用燃料確保」		
中止 (1月27日)	「風水害における浸水害時の避難・救助」		

## 図上訓練の実施方法

- **検討会方式(学習型訓練)で訓練を実施**
  - ・「進行役(ファシリテーター)」による質問と、参加者からの回答を繰り返す形式
  - ・質疑応答を通じて、各機関の対応を関係者間で確認・共有
  - ・ロールプレイング方式ではなく、自由に意見を交わす方式